

S S 学院 塾通信 9 月

8 月末ごろから朝晩が少しは涼しくなった気がします。2015 年に当塾に就職したフィリピンの高校教師（病気治療のため 8 月に帰国）が、「日本は、フィリピンより緯度が 25 度も北に位置するのに、真夏の気温が 35 度を超えることには驚いた」と言うほど今年の夏は暑いようです。確かに近年の日本の暑さは異常と言えそうです。この先も CO₂ の排出が増えて温暖化は進みそうですから、気温だけでなく海水面の上昇が危惧されます。しかし、この問題の解決は難しいでしょうね。



さて、すでに中学生には配付していますが、再度、以下に掲載したいと思います。

S S 学院生諸君へ

【中学 3 年生】

9 月になると私立高校の入試まで約 5 カ月です。当然、「志望校を受験できるか?」「合格できるか?」を考える時が来ています。入試には内申点〔① 9 教科(国語、数学、社会、理科、英語、音楽、技術/家庭科、美術、保健体育)の 5 段階評価、② 授業中の積極性や提出物の期限厳守、忘れ物の少なさなどの評価、③ 定期テストや小テストの評価、等〕が大きくかかわってきます。そのことを考えれば呑気に構えていたら後悔するような結果となりかねませんが、今までのんびりしていた生徒であっても、今から入試まで頑張ればいくらかでも上を目指すことができます。ぜひ上記の①～③を頑張ってください。なお、中学校の教師の作成した問題に対応できても入試問題に対応できるとは言えません。入試問題に対応できる唯一の学習方法は市販の問題集を解くことです。

【中学 1, 2 年生】

高校進学を選択しない限り、高校入試は避けられません。そのことを考えれば、入試を考えずに日々の学習に臨むのではなく入試を考えて学習するべきです。その方が学力向上に不可欠な集中力や根気に良い結果をもたらすことが実証されているのです。まず、学力を上げたい場合、これから先の学習において理解できていない学習内容を放置しないことです。放置すると中学 3 年生時に学力が伸びきれず、どの高校を選ぶかといった選択肢が限られることになります。勉強の内容に関しては、中学 1, 2 年生の間はワークのやり直しをするこ

とが効果的です。そうすることにより理解できていないところに気づくはずで、そこを解消することが学力の向上に欠かせないのです。そして、そうすることにより高校入試で満足できる結果を得られるのです。もちろん決して楽なことではありませんが、先輩が消化してきたことですから決してできないことではありません。根気よく必要なことを消化するようにしましょう。いずれにしても中学1，2年生は現在の成績が芳しくなくても学年のトップグループの生徒の仲間入りをする時間的な余裕があります。また、すでにトップグループの学力を維持している生徒なら超難関校の入試を克服できる努力ができるのです。ぜひ頑張ってください。なお、熱中症や食あたりに気をつけましょう！！

塾通信には小学生の内容を記載することはほとんどありませんが、今回の塾通信において下記に必要事項を記載したいと思います。

【小学生】

近年、公立の中高一貫校の中学部を希望される生徒が多いようです。そのような生徒は非常に高額な塾費用を負担して合格を目指すのですが、合格できる生徒は限られていて、そのような塾で学習したとしても誰でも合格できるわけではありません。定員以上の生徒を受け入れないため常に競争率が高く、不合格となる生徒が非常に多いのです。実際に公立の中高一貫校の中学部への入学を希望し、受験コースを設定している塾に通いながらも不合格となって私立中学校に通う生徒は多くいますが、第一志望ではない私立中学校に合格していても「全員合格」と公表する塾は多いのです。そのことは、当塾生の情報（公立の中高一貫校を目指していた友達が不合格になって私立中学校に通っているといった情報）からも分かります。ちなみに、当塾の普通科(低い料金設定)からも公立の中高一貫校や難関私立中学校受験において良い実績を残してきました。彼らの中には入塾前から伸びる要素を秘めた（成績がよく、根気があって努力ができる）生徒もいますが、それだけでは合格するとは限りません。入塾後に学力をつけたことで公立の中高一貫校や難関私立中学校に進学する生徒もいます。当塾の場合はそのケースがほとんどです。なお、中高一貫校に入学することだけが目的では進学できてもあまり意味はありません。中高一貫校の高校部では、普通の公立中学校から入学してトップクラスの成績を残す生徒が多いからです。また、中高一貫の公立中学校や私立中学校に進学したのなら、その先に良い結果を残さなければ何のために中高一貫校の中学部に入学したのかといったことになりかねません。

最後に、夏期講習が無事に終了したことに当塾のスタッフもほっとしています。ここで改

めて、生徒には劳いの意を、ご家族の皆様のご協力には感謝の意を表したいと思います。

中学生の場合、原則として学校で実施されるテスト結果で生徒の学力やその推移が明らかになります。ただし、1中学校内の同じ教師が作成するテスト問題に慣れてしまうと業者などの模擬テストに十分に対応できません。本来なら、教師が持つ指導書（教師が教科書に沿って教科指導を行う場合に参考とする図書）に沿って指導していれば中学校間のレベル差はこれほど大きくないと思うのですが、教師によって学習指導の考え方や教える技術が異なるため、例えばA中学校のテストとB中学校のテストに難易度の差があるといったケースが生まれます。このような場合、難易度の低い中学校のテストで良い結果を残していたとしても、模擬試験や入学試験では難しく感じて良い結果を残せません。つまり、一人の先生が、中学校1年生から中学3年生まで同じ生徒を教え続ければ、その教師の出題するテストに慣れてしまって、その教師の作成した問題でなければ対応できなくなってしまうのです。その観点から考えれば、実力テストの問題に対応できる学力をつけることが重要です。なお、入試は、当日のテストの得点と内申点で合否が決まるため、ある意味ではテストの難易度の低い中学校のテストを受ける生徒は内申点において有利ですが、その内申点に見合うほどの実力はないため入試に対しては不安が残ります。以上のことから実力テストで良い結果を残せない生徒は非常に多くいますが、前述のように学校の教師の問題だけでなく市販の問題集を解くことで実力テスト問題に対応できるようになります。当塾の卒業生も多くの問題集に取り組むことで学校と塾の学習の効果を発揮できるようになりました。現塾生においても、実力をつけるため様々な問題集に取り組んでもらいたいと思います。